

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 350

2024. 5. 11

学 力 研 発 行

常任委員長 岸 本 ひとみ

郵便振替 00920-9-319769

# 学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

学年の初期、四月いっぱい、字を書いたり、計算することをいとわないで、少々時間なら、つめてやっていける子にしていくことに意を注ぐべきです。極端な言い方かもしれませんが、「勉強とは書くことなり」と、しつけていくのです。初めの頃、子どもたちは、いやがります。めんどくさいと言います。悲鳴をあげる子もいます。でも、そんなことは無視します。「小三年なら三〇分、小五年なら五〇分ぐらいは、黙って勉強をやり続けていく能力はあるはずだ。それができない子を、世間では、落ちこぼれといっている」と言ってやります。それでも、まだ、しつこく文句を言う子には、「勉強ちゅうもんは、昔からしんどいと決まっとる。しんどいことでも、根気強くやり続けていけば、やがて、自由に書いたり、計算できるようになってくる。すると、勉強が楽しくなってくるんだ。落ちこぼれている間は、勉強するのが苦しいし、しんどいんだ」と断固として勉強することを強要します。ひるんではなりません。迎合すると、必ずガヤガヤ学級になっていきます。

岸本裕史「子どもの心を拓く教育技術」(1984.5)より

※「勉強とは書くことなり」と断言する岸本先生の言葉、どう思われますか。

タブレットを使って書くことが当たり前のようになり、子どもたちがノートを書くことで身につく根気良さが、弱くなっているように思います。(荒井)

## CONTENTS

### ◇特集 学力をつける子どものノートの取らせ方◇

「ノート指導からすべてがはじまる」	吉田雅直	2
ノート作りは何のため?	宮本 哲	5
継続はノートなり	加藤英介	8
学力をつける子どものノートの取らせ方	根無信行	10
学力をつけるための子どものノート	鈴木基久	13
ノート指導 1年生編～1学期から計画的に指導していく～	岸本ひとみ	15

### ◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える⑥「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ	岡本美穂	17
考える力をつけるための授業の組み立て方⑧ 具体と抽象を往復させる	荒井賢一	20
社会科(歴史)授業力アップ講座⑥ 教材研究④	深澤英雄	22
「先生のための学校」教師教育の復権	久保 齋	25
新学期スタート講座「一年間を見通した授業づくり・学力づくり・学級づくり」に参加して	十川瑠都	27
局長・常任委員長だより		28
学力研カレンダー		29

# 「ノート指導からすべてがはじまる」

大阪 吉田雅直

私は、どの学年を持ってても、ノート指導にこだわっています。それは、ノート指導こそが学習規律を育て、子どもたちの自信につながり、全員参加の深い学びを可能にすると確信しているからです。

## ノート指導で「学習規律」を育てる

ノート指導の基本は、教師の指示に従い板書と同じノートが書けるようになるということです。マスや行の使い方から、字の大きさに至るまで、徹底的に指導します。字の大きさに關しては、「ひらがなはひとマスの80%、漢字は100%」で書かせると、バランスのとれた美しいノートになります。私はいつも教科書のとびらの詩でこの指導をします。子どもたちと同じノートを使って完璧なノート計画を用意し、一時間の授業が終わったときに子どもたちのノートがそれと全く同じになるよ

うに丁寧な板書します。ここまでする目的は二つあります。ひとつは、「今年の先生はノート指導に本気でこだわっているな」「今年はまだかいとも違うな」という「期待感」を持たせるためです。もうひとつは、美しく仕上がった自分のノートを見て、「自分にはこんな力があつたんだ」ということに気づき「先生の言う通りにしたらこんなにきれいなノートが書けるようになった」という教師に対する「信頼感」を得るためです。最初の授業でノート指導にこだわり、技を教え、これまでは質的にちがうノートを書かせることで、子どもたちの期待感と信頼感を得ることができます。この期待感と信頼感こそが学習規律のベースとなるのです。学習規律とは教師が子どもたちに押しつけるものではなく、「先生の指示に従う」といいことがある。「達成感と心地よさを感じる」ことができる」という小さな「快適な情動」を日々コツコツと積み重ねた

先に育っていくものなのではないでしょうか。

## 「予習課題」で全員参加の授業を

私は国語の読解の授業では、どの学年でも「予習課題」を出すことにしています。これは「翌日の授業の主発問を宿題として考えてこさせる」というものです。つまり全ての子どもたちが、その日の授業の主発問に対する自分なりの答えがノートに書いてある状態で授業に参加するということとなります。これには二つの意味があります。ひとつは、「格差の解消」です。授業で発問すると、理解力と瞬発力のある子どもたちだけが発言し、国語が苦手な子どもたちは考えている間においていかれてしまい、そのうちにあきらめて始めから考えることを放棄し、完全に「お客様」になってしまいます。これに対し、予習課題を出すことによって、思考に時間がかかる子どもたちも宿題として家でゆっくりと考えることができるので、全員が同じスタートラインで授業に臨むことができます。これが、子どもたちの格差を解消するということなので

す。

もうひとつは「凛々しい個別化」と「豊かな交流」のある「全員参加」の授業を目指すためです。「凛々しい個別化」とは、発問に対する答えを言語化し、ノートに文字で固定するということです。これがあつてはじめて、子どもたち同士の「豊かな交流」が可能になるのです。「凛々しい個別化」のない「交流」は、一部の子どもたちによる「おしやべりタイム」でしかありません。全員参加の授業は、全員のノートに答えを用意させることから始まるのです。予習課題が難しい場合は、主発問だけでいいので、授業中にノートに答えを書かせる時間をしっかりと確保する方がいいと思います。

## ふりかえりて子どもたちをつなげる

私は、国語でも、算数でも、社会でも、毎時間の最後に、ノートに「ふりかえり」を書かせていますが、特に、国語のふりかえりは大切にしています。それは、ふりかえりて子どもたちを「つなげる」ためです。最大のポ

イントは、ふりかえりに友だちの名前を書かせるということです。つまり、「○○さん〇〇〇〇」という意見で……ということがわかりました」と、発言内容だけでなく、それを言ったのが誰かまで書かせるのです。誰の発言かを書くためには、誰が何を言うか聞いておかなければなりません。これによって、友だちの発言を聞こうとする意識が飛躍的に高まるのです。さらに、ふりかえりを共有することで、

「自分の意見で友だちの考えが深まった」「自分の意見で話し合いがより高いレベルに到達した」という貢献感が教室に広がっていきます。これがノートにふりかえりを書かせることで子どもたちを「つなげる」ということなのです。私は、ふりかえりの共有をした後に「再び書く」ということもしています。そうすることによって、「つながった」という感覚をみんなで共有することができるからです。また単元の最後に「まとめの感想文」を書くときにも、友だちの名前が入ったふりかえりを見返すことで、みんなで高まることのすばらしさを実感することができます。このように「ノートに友だちの名前入りのふりかえり」このように、ノート指導は学習規律を育て、

格差を解消し、凛々しい個別化による全員参加の豊かな交流を可能にし、ふりかえりて子どもたちをつなげ、思考力を鍛えます。ノートは最も便利で効果的な「思考ツール」であり「宝の山」なのです。それを最大限生かすか「宝の持ち腐れ」にしてしまふかは、ひとえに教師の意識と覚悟にかかっていると云えるのでないでしょうか。

を書く」ということで、授業に対する意識を大きく変え、子どもたちを豊かにつなげることができるようです。

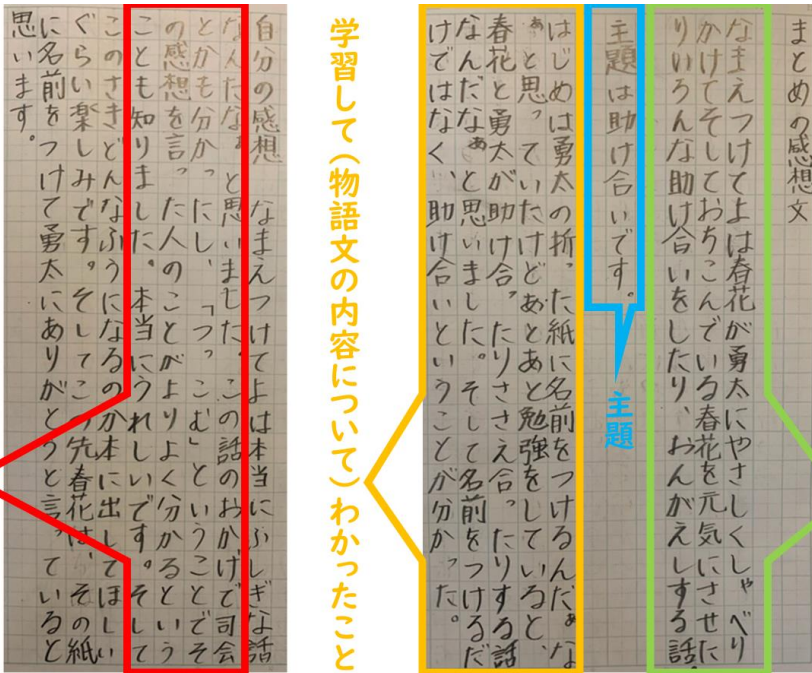
## 「わからないこと」は「わかること」

私は、初発の感想や予習課題でノートに「わからないこと」を書かせるときには、「たぶん」と思います。「もしかしたらくかもしれない」と自分の考えや予想を書かせることにしています。「くがわかりません」と、わからないことを書かせるだけでは、思考が働かず、豊かな交流も生まれません。本当に「わ

からないこと」はアンテナにもひ  
つかりません。「わからない」と  
認識できることは、実は「半分わ  
かっている」ことなのです。そこ  
で「たぶん」を考えさせると、思  
考が働き、必ず自分の考えや予想  
を書くことができるのです。

# 5年生「なまえつけてよ」 まよめの感想文

あらすじ

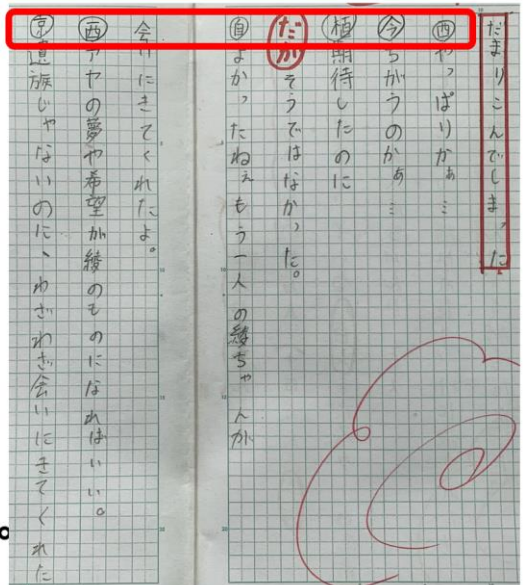


学習して(物語文の内容について)わかったこと

物語文の学習を通して身につけた学習方法

## 5年生「たずねびと」より

毎日の授業のふりかえりに「誰が言った意見か」ということも書かせるようにしたことで、このノートの子は、友だちの発言内容の上に言った子の名前を自主的にメモするようになりました。意識が変わったことで、行動が変わったと言えます。



## ノート作りは何のため？

### 大阪教育サークルはやし 宮本哲

#### 「動機づけ」

今年も昨年に引き続き六年生の担任をさせていただくことになりました。授業が始まり新しい担任になり、新しい友だちになり、それぞれ新鮮な気持ちで今年一年間、頑張っているという気持ちも伝わってきます。さらに六年生は、小学校最後の一年間であること、最高学年であることなどでその思いも強く感じられます。

どの教科も六年生ならば今までに積み上げてきたノートの取り方がありません。だから、始めに

「今まで学んできたことをいかして、精一杯のノート作りをしてごらん。」と声をかけます。

そして私は黒板にゆっくりといねいに文字を書いていきます。この時、子どもたちの書き始めのスピードを見ます。私と同時に書き始めている子、途中から書き始める

子、私が書き終わってもまだ書き出さない子など、様々です。だから子どもたちには「先生と同じスピードかもしくは、先生が書き終わって一〇秒以内に書き終えなさい。」

と伝えます。書き終えた後それができていた子を褒めます。それを続けていくことでノートを書く習慣づけをします。

そうやって書いたノートは、始めの頃は毎時間集めます。すると、同じことを書いているのに全く違ったノートが出来上がってきます。パッと見て何を学んだのかが分かる見やすいノート、隙間がなく見にくいもの、色を使っていないもの、丁寧な字でないもの（これは初回にはないですが慣れてきた時に出てきます）縦書きなのに横書きで書くもの（これは今年ありました）途中でまじか書いていないものなど。ここから分かることは、六年生なのにノートの書

き方を教わっていないということとノートをとることが学力につながるということを実感できていないということです。

実際ノートを見やすく書いている子たちは、学力もついている子が多いです。だから、子どもの実態を把握した後、ノートの取り方とノートを取る意味を教え、それを継続させ、自分のノート作りができるように導いていかなければなりません。それが学力につながります。

#### 「動機づけ」

子どもの実態を把握した後、多くの子どもたちが良く知っているトーマス・エジソンの話をします。

「エジソンは、困った時〇〇〇に相談しました。〇には何が入ると思いますか？」

子どもたちからは、

「友だち」

「先生」

などの答えが返ってきます。答えをノートと告げると、えっと少し驚きます。そしてエジソンの実際のノートを提示します。英語で書いてあるのでどんな内容なのか分からないので、どんなことが書かれているか

考えます。実際にエジソンは見開き一ページにいろんなことを書いていました。

①自分のアイデア

②図・絵・式

③間違いや失敗

④他の発明家の論文

⑤疑問

⑥日常の出来事・ジョーク

このようなことが書かれていたことを紹介します。エジソンも日々ノートに書いて自分の思考を整理していたことを伝えます。

そしてそのノートの数が三千五百冊にも上ること、電話機の絵だけでも三〇〇個以上書かれていたことなどを伝えます。ノートが発明王につながっていったことを知り、自分のノートの大切さを感じてもらいます。さらに小学生たちのノートを提示します。「きれい。」

「丁寧で見やすい。」

などの声が出ます。このノートは東大生が小学生だった頃に書いたものであることを教えます。すると自分も見やすいノート作りをしていこうという気持ちになります。

最後に私が今までに持った子どもたちの

ノートをいくつか紹介します。子どもたちは、自分も工夫したノートを書いていききたいという気持ちが高まります。

「ノート作りの基本」

その後、ノート作りの基本を教えます。

①きれいなだけでなく、いいので丁寧に書く。

②三色を使い分ける。

赤・・・大事な事、覚えることなど

黄・・・友だちの意見、つぶやきなど

黒・・・赤、黄以外

③間を空ける。

まとまりごとに一行空ける。

④イラスト、図、絵などを適度に入れる。

⑤枠を活用する。(カテゴリーに分ける。)

四角、雲、ふきだしなど。

この五つを教えます。私の板書もこれを意識して書きます。この基本を意識しながら、さらに自分なりに工夫を入れてオリジナルノートを進めていくように促していきます。

「見守る」

最も難しいのは、教えたことを子どもたちが継続し自分の力にしていくことです。そのために

①ほめる

机間巡視の時にほめる、写真にとって紹介

しながらほめる、日記(成長ノート)のコメントでほめる、休み時間にほめる、友だちにその子のノートの良いところを伝える、

家族にノートの良いところを伝える(学校に兄弟がいる弟や妹に伝えると親にも伝える)、ペアや班でいいところを定期的にほめるなどいろいろなところでほめる機会を増やしてきます。

②ノートコンテスト

月に一回程度ノートコンテストを行います。それぞれの工夫を見合いながら、友だちの工夫を知る機会を設けます。

このようにしてノート作りを進めていきます。

「ノート作りをする」とい

私は、タブレットではなく紙ベースのノート作りを小学生がしていく意味は大きいと思います。学習指導要領で示されている

三つの資質能力である①知識・技能②思考力・判断力・表現力等③学びに向かう、人間性等の力をつけていくには紙ベースのノート作りをした方が、力がついていくと思

うからです。将来の変化が予測することが



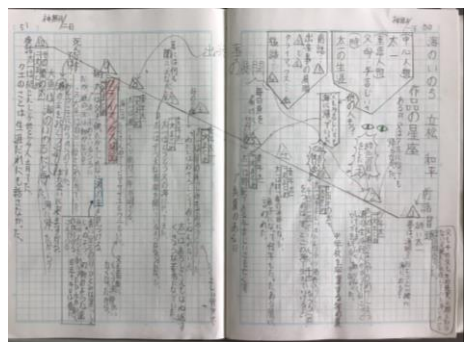
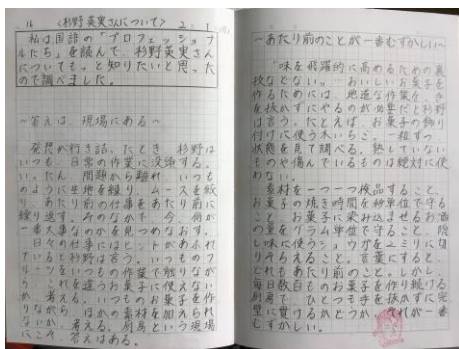
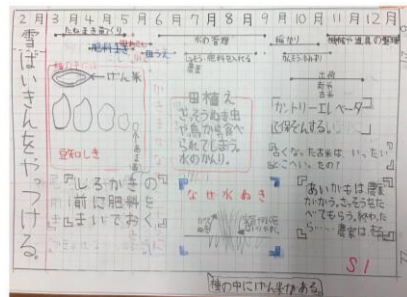
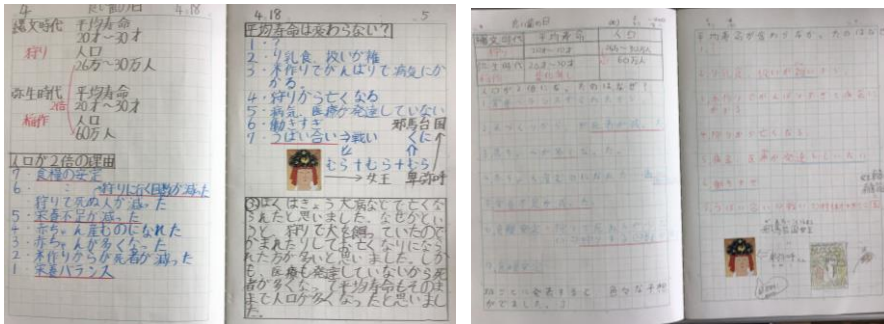
難しくなっている現在、特に学びに向かう力、人間性等をはじめとする非認知能力が重要になってくると言われています。

非認知能力は、自分を動機づけで高めようとしたり、自分の感情をコントロールしたりしながら、自分と他者を大切にできる力のことです。

この非認知能力を付けていくには紙ベースのノート作りの方が私は良いと考えています。タブレットは、どんなことでも簡単に済ませようとしがちです。そうすると、最後までやり抜く力（忍耐力）や自分の行動をコントロールする力（自己制御）が付きにくくなると思います。人は成長の中で適度のプレッシャーを受けることでそれを使い越える中で非認知能力が身についていくと思います。ですから小学校や中学校など一律にタブレット学習を進めるのではなく、それぞれの発達年齢に合わせた方法を用いる必要があると思います。

今は、タブレットをたくさん使用した授業が良いとされる傾向にあります。本当にそれが子どもたちの未来につながる成長になっているのでしょうか。子どもたちが自

分たちで将来、幸せな社会を作っていく力をつけていってあげているのでしょうか。流行ではなく子どもの実態にもう一度立ち返る時に思っています。



## 継続はノートなり

加藤 英介

### ノートからタブレットへの違和感

コロナによって、日常生活のほとんどがストップしたとき、学校教育に突如現れたタブレット。「個別最適な学びと協働的な学び」を実現すべく、どのアプリ・ソフトを使って子どもの学びを進めていくのかというところに力を注いでいた。コロナが落ち着いてからもタブレットが日常的に使われるようになり、教師の中には「タブレットを使わなければいけない」「研究授業ではタブレットを使うように！」という指示さえあるという。もちろん、それによって救われる子がいることは確かである。学習が苦手な子がタブレットによって意欲を示したり、言葉だけでは伝わらなかったことがICTを使うことによって簡単に伝わるようになったり、今まで取り残されていた子たちが学習しやすい環境になったのは間違いない。しかしながら、問題もある。それは、タブレットに慣れすぎたことによって「書く」

ということができなくなっているということだ。

実際に、授業後、今日の内容をノートの見開きにまとめてもらんと指示を出した時に次の声がすぐに聞こえてきた。「どうやって書いたらいいの?」「書き方が分からない」「ぐちゃぐちゃになっちゃった!」「消すのもストレス!」という声が多くあがる。これはタブレットのときにはなかったことである。なぜなら、タブレットにはテンプレートがあり書き方が載っているからだ。それをコピー&ペーストしても引用しても分らないからだ。

だが、ノートは違う。自分の頭で考えなければ書くことはできない。世の中が便利になって授業も短時間で理解しやすくなったのかもしれないが、子どもたちの思考を停止しているのではないかということに気が付いた。久保先生は「面倒くさい」「効率が悪い」ことこそ「学力」をつけることがで

きると話していた。だからこそ「ノートに書く」という最も簡単でいつでもどこでもだれでもできることが大切であり学力をつける唯一無二の道具なのだと思う。

### 学力をつけるノート指導

ノートは何のためにあるのかと授業開きの時に聞く。「自分が学ぶため」「テストで満点取るため」という意見が多い。そこで「ノートは自分のためでもあり友達に今日学んだことを伝えるためのものでもある」ということを伝える。また、タブレットで作成したレポートと鉛筆で書き込んだノートを比較させる。「どちらが学んでいるのだろうか」と聞くとき多くの子がノートを指さしていた。書き方もあるが教科書には書かれていない自分だけの学びを書いていた方が子どもたちの中では「学んでいる」ということを実感するらしい。実際に取り組んでみても、45分という時間の中ではノートの方が圧倒的にまとめやすい。こうやって、きれいに書くこと賢くなるということを実感させていく。

どの学習でも書くことは基本的に変わらない。授業でできたことを家庭でもできる



ようにし、最終的に自分の力で書けるようにしていくためだ。

- ① 日付、番号、教科書のページ
- ② 課題やめあて、問題
- ③ 自分の考えや友達、全体の話し合い
- ④ まとめと振り返り

この4つでノートは構成されている。

授業開始と同時に①はノートの端に書く。②は教師や教科書に書いてある課題、子どもたちが解決したいめあて、問題文など、本時のテーマを書く。その後、③を書き始める。自分の考えについては「分かる」「分からない」「どうして」「なぜ」という理由を大切に書かせるといい。何が分かっているのか、何が分からないのか現時点で理解していることを明確に書いておく。話し合いのときに自分なりの視点をもつて参加することができる。分からないなら「全部分からない」ではなく「○○までは分かるけれど○○からがよくわからない」とどこで困っているかを書かせる。最初は一言、二言でもよい。書き方が分かるまでは丁寧に伝える必要がある。話しながら「そのことを書いてもらえん」と言ったり「友達

のノートを写すのも勉強。参考にしてみよう」と声を掛けたりして少しずつ書けるようにしていく。書き慣れてくるとそれだけではあきてくる子もいる。その際には、吹き出しや絵文字、イラストなど見たら楽しく学べるノートを意識させる。(特に女子は好きな子が多い)話し合いのときには、意見を聞いて大事だと思ふところをとにかく書かせる。④のまとめでは②の課題やめあて、問題に対する答えを書く。振り返りは一時間の学習を経て、どんなことに気付いたのか何を仲間から学んだのか自分だけが発見したことは何かを書く。そして、提出した子から授業を終える。そうすることで「やらなくてもよい」という甘い考えに終止符を打つ。

このような形で毎時間ノートに書くことを続けるのである。そして、書くことに慣れさせていく。すると、ノート以外のことにも活用されていく。新聞づくりではA4の真っ白な紙を渡しただけでレイアウトや差し絵の位置、見せ方など考えて作成することができるようになる。ただ単に写真を見せるプレゼンではなく語りで伝えること

ができる。タブレットになっても、休校になっても、自分の力で学ぶことができるようになるのである。

とはいっても最初からうまくはいかない。質よりもまず量である。結果はあとからついてくる。子どもたちもきつと半信半疑で取り組んでいることだろう。でも、毎日取り組んでいく中で「書く」ということが「楽しいな」「勉強してるな」「賢くなってるなかも」という錯覚を生み、いつか現実になるのだと自分自身確信を持って取り組んでいる。

現在、4年生を担当している。一ヶ月で「書かなくてもいいや」から「書かなくては…」という最低限のルールは学級でできてきた。中には「書きたい」という気持ち芽生え始めて自主学習に取り組んでいる子も出始めてきた。5月はテスト勉強の仕方もノート指導を踏まえながら取り組んでいく予定である。特別なことをしているわけではないため、効果抜群ですぐに結果は出ないかもしれないが確実に力はある。また、夏の大会でも報告していきたい。

# 学力を上げるためのノートを取らせた方

大阪 根無 信行

## 一、紙のノートがなくならない

2020年、コロナ禍をきっかけにタブレットの導入が前倒しになり、教科書・そして紙のノートがデジタルに取って代わられる・・・かのように思われました。

実際に、教科書は見ずに、拡大した教科書画像をプロジェクターで掲示して授業で共有したり、授業アプリに書きこんだ解答を提出したりすることができるようになったことで、そういった使用をすることはあります。けれども、紙の教科書の使いやすさ（見渡せる、厚みでページ数を予想してめくれる、書きこみややすいなど）や紙のノートの手軽さや見直しやすさは、デジタルでなくても叶えられるために、4年たった今もなくなることは無いようです。子どもたちが学校に来られて、顔を見て交流しながら授業が出来る今、リモート授業でない限り、デジタルで文字を書いたり送ったりすることに、学校では大きなメリットがないからだと思われれます。



教員においても、タブレットを持参されている方、教務必携代わりにされている方も増えてきていますが、その中には、「タッチペン」を持って資料に書き込みをされている方を多く見かけます。それこそ、大人になつてからも、『文字で書く』ということの便利さと大切さを表しているのではないかと思います。




## 二、ノートの使い方

紙のノートを使うといっても、様々です。板書を写す、解答用紙の代わりにする、(漢字や計算などを)練習する、ワークシートを貼る、などです。その中で、ワークシートのようなノートの使い方であるならば、それはタブレットでも代用できるだろうと考えています。学年にもよるとは思いますが、次の資料のようなワークシートなら、紙のノートでなくても、タブレットに画像として送信してやったもの書き込ませれば、かまわないと思います。

四年組 名前 ( )




④ 漢字の組み立てを知ろう

漢字でおまかな意味を表す部分には、 やつくり  の他にもあり、それぞれ名前がついています。

 <b>くよう</b> く(く) よう(よう)	 <b>あし</b> あ(あ) し(し)	 <b>かんむり</b> かん(かん) むり(むり)
		** (まかむり)
		** (あかむり)
		** (あむり)
		** (あむり)

---

☆ 今日の日ふりかえり

 <b>かまえ</b> か(か) まえ(まえ)	 <b>たれ</b> た(た) れ(れ)
	 (にかまえ)
	門(かまえ)

4年生を例にして紹介します。こちらは、国語 漢字の組み立て(旧光村：今年度の改定でHPに移行措置資料として掲載)です。

けれども、教科書などの他の教材をもとに、考えを巡らせたり、自分の考えとクラスメイトの考えを交流して比べたりする授業の時には、紙のノートに取るこのほうが、学力をつけられると考えています。

学力研では、国語の物語教材を中心とした、予習と交流による学習や、岡本先生のような計画的な板書で構成されたすばらしい実践が報告されています。そういった実践の中には、タイムリーに共有される授業の中での思考を、ノートに「書く」ことで子どもたちが自分のものにしていく流れがあるのだと思います。

次の資料は、その報告されている実践のようにできたら、という思いで取り組んでみた、『「こんぎつね」の授業ノートです。子どもたちは、教師の板書を基本に取っていますが、本文中にない言葉や、その場面の後にあったであろう出来事や、台詞の続きなど、予想したり考えたりしたこと、友だちの意見を、メモのように追記しています。教師としてノートに残してほしいところ、その子が残したいと思ったこと、がひとまとめに見られるノートがいいなと個人的に思っています。

めい わし事けんについて考えよう。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

「これはしまった」かわりやつに  
こゝろはあせいな

この日も次の日のくりをむすの家に待つて行た。  
その次の日は、まつたけ  
あやまりたりけい...むすこまつねを回わられる。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

見づらいかも知れませんが、小さな字や、色を変えた字で、子どもが追記しています。

4年生の学級で、「書く」ことの大切さを伝えようと、書くこととは直接つながらないように思えるスポーツと、字を書くことに纏わる話をした後、こんな通信を出しました。

# 紙やノートに「文字を書くこと」について

今、国語で『考えたことを書き、読み合おう』という学習をしています。これまでのまどめのような学習で、要約の力、読みやすい文の作り方、分かりやすい伝え方が必要になります。ポイントとしては、①テーマ ②具体例 ③なぜ、理由 ④自分の考え をは、きりさせることです。

大谷翔平メモ

体のア サリメント PSQ 20kg	柔軟性 体ゴツ RSQ 130kg	スタミナ 可動域 下半の強化 体を開か	スピード改善 体幹強化 軸のぶゆ 角度を付け 上からボール をたく	コントロール 不安をなくす キレ 下半の強化 体重増加	リストの 強化 下半の強化 体重増加
メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル
メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル
メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル	メンタル メンタル メンタル

大谷選手の目標達成シート



森保監督のメモ

それは、「書く」ことの手をつけることが、すべての学習にとって大切なことだからです。しかも、「タブレット」ではなく、「紙に」「自分の字」です。前に、脳のお話をしましたが、スポーツでも紙に「書く」ことの大切さは証明されています。「考える」だけでなく、それを手を使って、目でも見られるようにすることが、脳をしっかりと働かせ、自分の身につく本当の力となるのです。

一見、見た目がキレイです。きりしたようなタブレットの文字は、「自分のものではない」そうです。電子のデータは、紙と比べて、残っているようでも、実はただの点、ワの集まり、にせ物なんだとか…。分からない漢字も、検索にたよらず、先生もちゃんと辞書を引こうと。



## 学力をつけるための子どもノート

鈴木基久

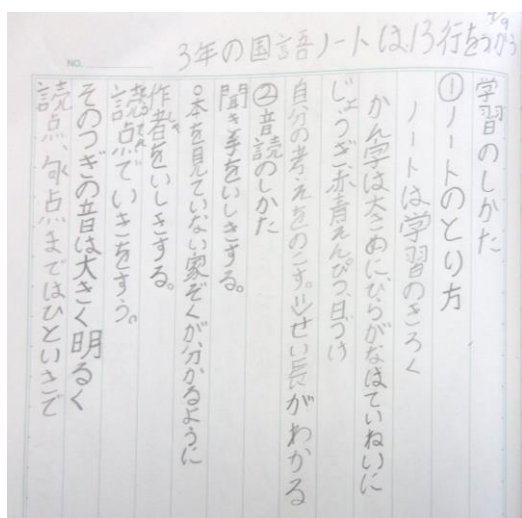
昨年度の3学期に2年生の子どもたちの国語のノートを集めた。きちんと書けている子とそうでない子の差が大きく、自身の指導不足を感じたことがいくつもあった。

特に気になったのは記述された内容ではなく、ノートの使い方の基本ができていないことだった。そこで、今年度は国語の授業の始めにノートの使い方について確認した。

最近の国語の授業開きでは「ノートは何のために書くのか。」と問うようにしている。「一瞬「えっ。」となる子もいるが、今年は「学習したことを忘れないため」という答えが返ってきた。大事なことを板書するから、それをノートに書いて後から見ても思い出せるようにするために、ノートにしっかり書くことは大切だと確

認した。さらに、ノートは自分の考えを文章に表すためのものでもあるから、自分の考えを書くときには頑張って書くことと話した。

2つの目的を踏まえて、ノートは学習の記録が集まった大切なものだから、大事に扱ってほしいと伝えた。



上の写真は、3年生の授業開きのノートで、最初だったので無理をせずに2時間で1ページを書いた。

ノートの基本として、日付を書くこと、ページをとばさないこと、読める字で書くこと、2冊目以降も1冊目と同じ野線のノートを使うことを確認した。

4月に一度言っただけでは、定着しないので、ノートの使い方はこれからも意識できるように折に触れて声を書けていきたいと考えている。

学力研では、板書も4月から3月に向けてレベルアップしていくという提案がされている。私自身は、板書についてここで語れるような実践はできていないが、4月の板書はすつきり、分かりやすくするというのは大切だと思っている。それは、板書の量が多いと、書くことと思っても書ききれない子が出てきてしまうためだ。

私は2年と3年の担任が多いのだ



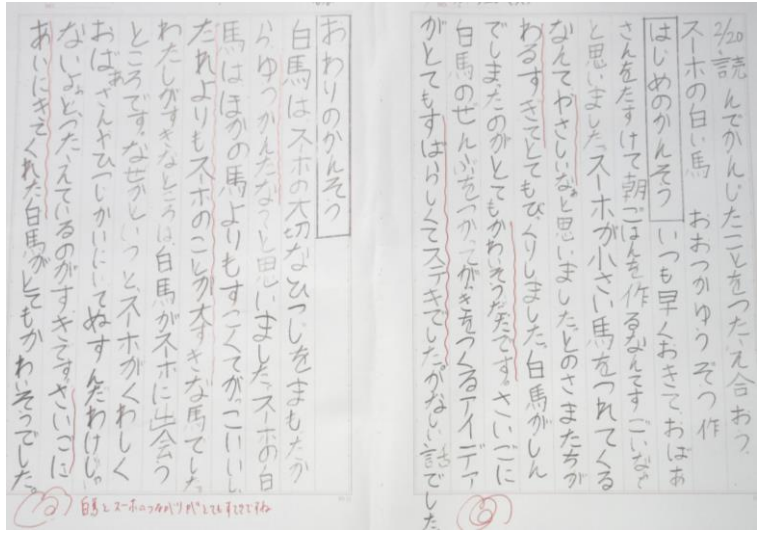
が、年度初めには必ず平仮名五十音表と片仮名五十音表が書けるかチェックしている。平仮名2分以内、片仮名2分半以内が目標である。春休みをはさんでいるせいも、忘れていた字があったり、書くのが遅くなっていたりすることがよくある。

3年生でも、片仮名を忘れている子は学級に数人はいる。平仮名、片仮名がすらすら書けなくては、板書を書くのにも時間が掛かるし、作文を書くにも自分の思いをスムーズに書き表すことができない。全体指導を何度か行い、苦手な子には繰り返し練習させて平仮名、片仮名が使える状態にしておくことが大切だと思う。五十音表は2学期、3学期にも一度は取り組むべき必須の課題である。

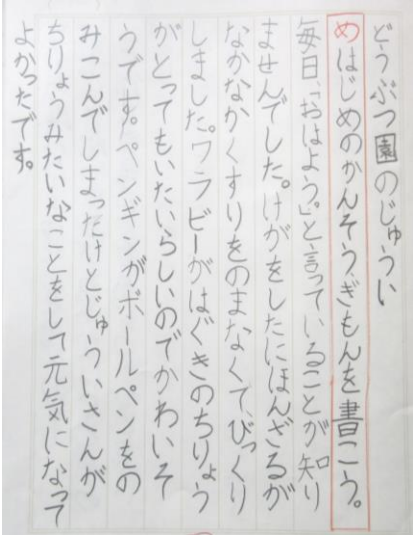
ひらがなのくせ字がひどくてノートに何が書いてあるか読み取れない子もいる。五十音表を書かせると、どの字を直すべきなのかはつきりする。ひらがなの「あ、め、ぬ」の形

が整っていない子や「い、り」の区別がつきにくい子もいた。年度の始めに個別指導をして、読みやすい文字が書けるようにしておくとその後の学習がスムーズにできると思う。

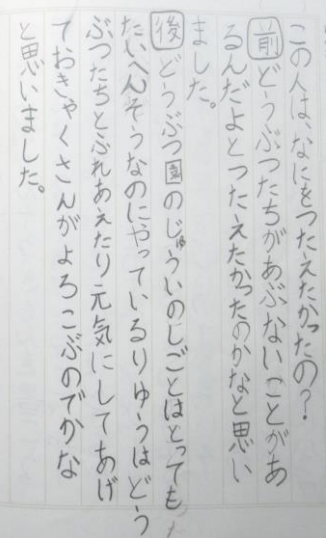
国語の文学教材では、初めの感想を見開きの右ページに書き、単元の学習の最後に、隣の左ページに終わりの感想を書くようにしている。



説明文教材でも同じように、初めの感想、疑問を書くようにしている。



次のページには、「この文章は何を言いたかったのか」について簡単に書くようにしている。単元の最後に再び自分の考えをノートに書く。こうすることで、学習前と学習後の自分の読み取りや考えの変容に子ども自身も教員も気付くことができる。



# ノート指導 一年生編

## 1学期から計画的に指導していく

加印いろえんぴつ 岸本 ひとみ

○1年生のノート指導は説明文で

4月から1日2文字ペースでひらがな指導を始めて、6月になると一通りおしまい。

ここからが、ノート指導となります。もちろん、それまでに「ことばあつめ」「しりとり」など、ノートを使って書くことの指導は進めておきます。

初めての説明文では、国語の教科書の視写を中心に指導します。下記のように、細かく丁寧な指示をして、ゆっくりと視写を進めていきます。ここで、急いでしまうと、句読点に着目したり、段落について理解することが難しくなってしまいます。

コツは、10マスノートを使うのであれば、板書とノートの字配りが全く同じになるようにしておくことです。裏技として、水性の緑マーカーで、10マスノート2ページ分を黒板に作ってしまうと、楽に指導できます。(半年ほどすると、水性なので消

### 視写で、聞く力をつける

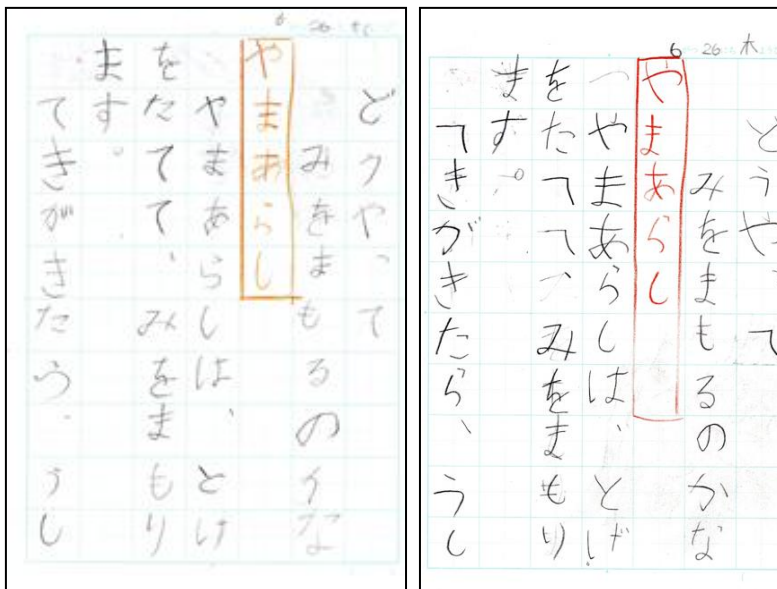
#### 《指示の例》

- 1行目は題名を書きます。
- 上から1マス開けて、「どうやって」まで書きましょう。
- 題名が長いので、2行目にも続きを書きます。
- 上から2マス開けて、「う」の隣に「み」を書きます。
- じゃあ、続きは「みをまもるのかな」ですね。
- これで、一番下まで満員になりましたね。

※もちろん、事前に子どもと同じマスのノートに書いて、字配りはしておきます。

※時間がかかる子どもには、机間巡視しながら、朱で書き足します。

えていきます。もちろん、夏休みには12マス用のノートを黒板に作ります。(



東書「どうやってみをまもるのかな」より

そうやって書いたのが左のノートです。左右とも、あまり美しい文字とは言えませんが、これぐらい書けるようになっていれば、十分です。

○2学期には視写+アルファで

こちらは、光村の「うみのかくれんぼ」でのノート指導です。右ページは、話し合っ  
てまとめたものの板書し、それを視写しました。左ページは「たこ」のすごいと思うところを、手紙形式にして書いたものです。

たこ	はしよ	うみのそこ
ぶき	からだのいろをかえ	
る		
かくれかた	まわりとおな	
じいろになつて	じぶんの	
からだをかくします。		



たこ	はしよ	うみのそこ
ぶき	からだのいろをかえ	
る		
かくれかた	まわりとおな	
じいろになつて	じぶんの	
からだをかくします。		

たこ	はしよ	うみのそこ
ぶき	からだのいろをかえ	
る		
かくれかた	まわりとおな	
じいろになつて	じぶんの	
からだをかくします。		

この頃になると、自分の考えていることが  
だいたい自由に書けるようになってきま  
す。視写のページは正確さを求めますが、  
自分の考えの方は多少の誤字脱字は認める  
ようにして、自由に書くことを目標にして  
います。

## 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

### 6年生 国語の授業開き

#### 「創造」 (光村図書 扉の詩)

光村の国語教科書6年の巻頭の詩を授業しました。

#### ■満足するノートにつながる

##### 板書づくり

国語の授業開きで大事にしていることは、子どもたちに国語への「希望」を一時間で与えることです。

「先生、今日の授業楽しかったなあー。」  
「さつき先生が言ってくれたことってこういうことやんなあ？」

授業後の教室がこんな会話で溢れた時、何とも言えない、この仕事の素晴らしさを実感する瞬間です。

子どもたちが楽しいと思う授業、できる

が増えた授業、わかる授業、それをサポートする道具の一つが「ノート」です。勉強する前とした後の「かしこさ」がノートからにじみ出るようにしなくてはいけません。

○子どもがノートを大切にしている、

○ノートを書くことが楽しい、

と感じること、学ぶ意欲には大きな関係がある、ということですが。

ただし、いきなり「ノート指導」に取りかかったからといって、急に子どもたちが変化するなんてことはありません。注意すべきポイントを押さえながら、子どもを信じて、子どもの姿を通して実践していきましょう。

子どもがノートを大切にしよう！と思えるのはどんな時だと思われませんか？

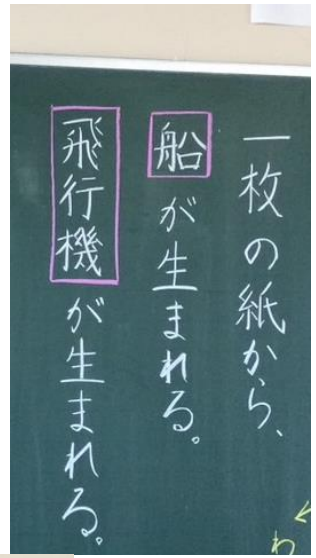
それは、子ども自身が、自分で書いた。へ

ージに満足した時だと、子どもから教えてもらいました。どんな子どもも自分のノートを、素敵なノートにしたいのです。だから、最初のページだけはきれいな字で書きます。しかし、続かないのです。それは、やる気はあるのに、子どもの書くスピードと、授業のスピードに差が出てきたために、追いつけなくなるからです。そこで、ノート指導を大切にするために、4つのことを授業で心がけています。

- ①板書の文字は少なめに書く。
- ②子どもの書くペースに合わせて、板書の文字もゆっくり書く。
- ③励ましの言葉をたくさん伝える。
- ④よいノートは掲示する。

4、5月にこの取り組みができるかどうかで、その後は全く変わってきます。



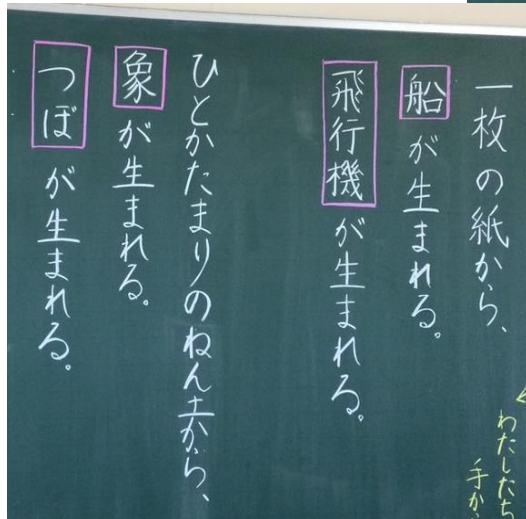


(1)

このように題名はふせて、いきなり「一枚の紙から」と板書していききました。そして「船」「飛行機」は書かず、考える時間をとりました。自然に「どう思う？」と聞き合っているペアを見つけてはそういう姿が大事だと伝えていきます。いろいろイメージしていますが、なかなか正解は出ないので、そこで発問しました。「何色の紙ですか？」と聞きました。子どもたち「白色」といろいろ言いながら「画用紙?」「折り紙?」と考えを広げていきます。正解することよりも、「一枚の紙」という言葉からイメージしたことを友達と共有する楽しさに気がついてほしいと思っています。そうしているうちに「紙飛行機?」

という意見が出て「船と飛行機」が出てきました。それを子どもたちはノートに書きます。

(2)



二連目も、一連と同じ流れでやっていくのでスムーズです。ひとつかたまりを辞書で調べて、イメージしている子どもたちもいましたので、国語では「辞書」を活用する大事さも伝えていきました。低学年の時に

粘土で遊んだな、などのつばやきから「動物」がすぐに意見として出てくるので「象」はわかりやすいようです。

ただ、「つば」はひねりがあるので、作者の考えにせまれるように粘土とは？と発問しながら進めていきました。一連と二連を終えて、音読していきます。その際、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができることをめざしています。

(3)

三連目は、何も言わずに板書していきます。すると、つばやきで「きつきとは違う」と発見していましたので、そういう「比べる力」は国語で大事にしていくことを伝えました。

誰に向かって、何を呼びかけているのかを考えるために、「わたしたち」「手」を隠して、また子どもたちに考えてもらいました。「紙」「粘土」両方手を使うから、と根拠を持って意見を伝えてくれたので、今後の授業でも「なぜかという」という根拠は大事にしようということを伝えまし



一枚の紙から、  
わたしたちの手から

船が生まれる。

飛行機が生まれる。

ひとつかたまりのねんぷから、

象が生まれる。

つばが生まれる。

生まれる。生まれる。

わたしたちの手から次々と。

た。ただ、題名をまだ伝えていないので、全体を音読した後を考えました。ペアなどで意見交流していくと「そうぞう」という言葉が出てきていました。そこで「想像」か「創造」かどちらなのかを考える時間をとりました。

辞書で調べながら、今回の授業を振り返っていく姿が見られました。

最後に、これは「光村図書」の教科書の扉の詩であることを伝え、実は「東京書籍」にも扉の詩があることを伝えました。それぞれ6年生としてテーマがあるので、みんなが使っている「東京書籍」はいのちがテーマになっていることを目次を通して確認しました。  
「創造」と「いのち」このことを1年間通して大事にしていこうと伝え振り返りを書きました。

そうぞう  
創造  
今までの物  
新しいもの

想像

思  
浮かべる

みんな  
最初に  
考える方に

わたしたちの手から

一枚の紙から、  
船が生まれる。

飛行機が生まれる。

ひとつかたまりのねんぷから、

象が生まれる。

つばが生まれる。

生まれる。生まれる。

わたしたちの手から次々と。

三連の詩

# 考える力をつけるための授業の組み立て方⑨ 具体と抽象を授業の中で往復させる

考える力をつけるための授業の組み立て方⑨

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

転勤し、新たな学校で、五・六年の計七

学級の理科専科となった。

最初の理科授業で、長めの自己紹介の後、

「なぜ、理科の学習をするのか」を子どもたちに問うた。

子どもたちの考えを受け止めながら、私の考えを伝えた。

「考える力をつけるため」



ワーキングメモリの大きな制約

引っ張り出せる情報が極端に少ない。

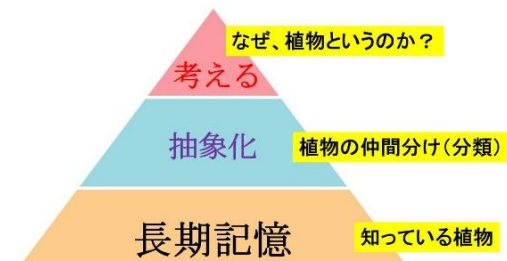
7 ± 2

言葉を使った整理整頓

抽象化

その後、上の図を示しながら考えるとは、脳の中にある記憶をまな板のようなワーキングメモリに載せて、料理する（活用すること）。さらに、制約のあるワーキングメモリを有効に使うために、抽象化する力が

必要であることを子どもたちに語った。



せていき、最後に雑草のように人が植えたわけでもない植物があるのに、「なぜ、植物というのか」を考えさせた。これが、「最初の理科授業である。授業の中の一つ一つの行為が、何の力をつけるために行っているのかを最初に示し

それゆえ、理科の授業では、長期記憶を豊かにする問いをして、そこで出された多様な考えを仲間分け（抽象化）することで、考える力をつけていく。実際に、五年生では、まず、「知っている植物」を書かせ、さらに、それらの植物を分類（仲間分け）させ

たわけである。

## ある日の理科授業

東京書籍の令和六年度版の五年理科の最初の単元は「天気の変化」である。

**観察しよう**

自分たちが集めた気象情報をもとに、天気の変化のしかたには、空や大地の様子があるといえるか考えましょう。

●日本時間のほか、どのように観ているのか。また、空や大地の様子を捉えているのか。

☆生活イメージ

天気の日  
曇り  
くもり  
雨

14

近年の気象衛星の画像	アメダスの雨量情報	各地の天気	種類の多いと少ない	大阪の多いと少ない	東京の多いと少ない
4月18日	21日 11時～12時	晴	24℃	21℃	14℃
4月19日	22日 11時～12時	晴	22℃	15℃	11℃
4月20日	23日 11時～12時	晴	22℃	22℃	14℃
4月21日	24日 11時～12時	晴	25℃	23℃	22℃
4月22日	25日 11時～12時	晴	24℃	26℃	21℃

気象衛星の画像を毎日観てみると、雲の動きがよくわかる。

風は、雲の動きと関係している。

湿度が高いと、曇りや雨の多い日が多い。

15

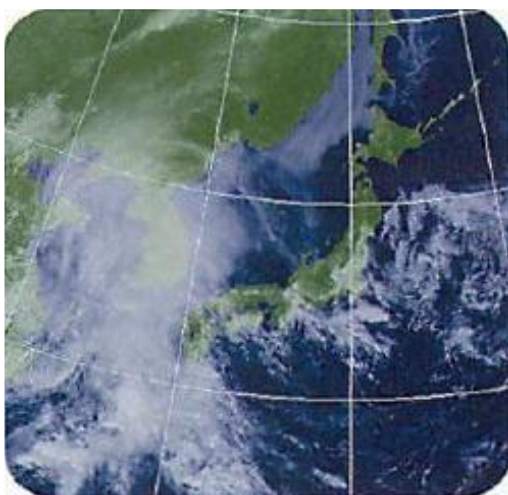
右のページは、気象衛星ひまわりの雲画像やアメダスの雨量情報、さらに各地のウェブカメラによる空の様子と気温が、五日

間に渡って、載せられている。

この膨大な情報を有効的に処理できる力を持つ子は、ほとんどいない。

それゆえ、ステップが必要となる。

第一ステップは、4月21日の雲画像だけで、気付いたことを書かせるのである。



「なるべく簡単な気づきを今、言える人？」

・九州に雲が多い。

例示の後に、各人でノートに番号を振って気づきを書かせていく。

途中、何個か書けている子から、ノートを持ってこさせ、私が指定した気づきを板書させていく。

「三番、書いてください。」というように。

あるクラスで板書された気づきである。

- ①日本以外にも雲がかかっている。
- ②にしがわにくもがない。
- ③日本海側に雲がある。
- ④北海道には雲がない。
- ⑤雲が全体的に多い。
- ⑥西の方が雲が多い。
- ⑦秋田県がわは、雲がない。
- ⑧九州の雲はうす雲。
- ⑨東北の海にはちままま雲がある。
- ⑩東京のほうに雲がある。
- ⑪気温がすこしひくい。
- ⑫北海道らへんの雲は、うすい。
- ⑬本州に雲が少ない。
- ⑭全体てきに雲が少ない。
- ⑮本州に雲があまりない。

右の気づきを書いた子に読ませた後、これらを仲間分け（分類）していく。

①の「雲がかかっている」の似た気づきはどれか子どもたちに聞くと、③⑨⑩の「雲がある」が出され、それぞれの気づきの上にAと書き足す。

逆に②④⑦⑮は「雲がない」でB。

⑤⑥が「雲の多さ」でC。

⑭⑮が「雲の少なさ」D。

⑧⑫が「雲の濃さ（薄さ）」でE。

⑮は、画像では気温が分からないので、「くだろう」と推測であるF。

というように分類した。

この分類によって、子どもたちが画像の気づきを書く視点として、雲がどこにあり、どこにないか、雲が多いか、少ないか、雲が濃いか、薄いか、そして、くだろうの推測の七つの視点が与えられたわけである。そうすると、気づきを五個ぐらい書くのは、簡単になるのである。

さて、授業の次のステップは、雲画像を縦五枚を見ての気づきを書き、発表となり、最終的に、全ての情報の中から、数点を選択し、自分の考えを言える段階まで、引き上げていくのである。

### 具体と抽象を往復させる

具体と抽象の往復は、理科以外の教科でも行える。

例えば、国語の説明文。

説明文には、筆者の考え（主張）があり、その考えを読者に分かってもらうために、具体的なこと（事例）を散りばめている。それゆえ、事例を見つけ、それを分類させていくだけでも、筆者の考えに近づいていくことができる。

ぜひ、様々な教科で試していただきたい。



教材研究④

学力研常任委員 深沢 英雄

一、授業のすすめ方

～授業構想・授業実施～

古墳の授業を例にして授業の導入・展開・まとめについてお話をしていきます。教科書の教材は後ろにのせていますので、参考にしてください。教科書が今年度新しくなっていますが、去年度の教科書をもとに解説していきますので、4月から使われている教科書と違う部分がありますので、ご了承ください。

二、指導書のすすめ方も知る

教材研究をする時に、指導書も参考にされると思います。これまで述べてきたような、素材研究、教材研究をした上で、指導書はどういう内容が書かれていて、どんな一時間の流れを構想しているのか知ることが重要です。

こんな展開が紹介されています。

発問（一）：教科書P64の「大仙（仁徳

陵）古墳」想像図を「古墳にほうむられた人」を見て気づいたことを話し合いました。

・学校の校舎や校庭の大きさと比較し、古墳の大きさを具体的にとらえさせるようにする。



発問（二）：教科書P64～65をもとに古墳づくりの様子や古墳に葬られた人について調べましょう。

・P65の古墳づくりの様子想像図から古墳づくりの困難さをとらえさせる。

・働く人々の様子に着目させ、子どもの

意見を取り上げ広め、見方・考え方（空間）を意識させるとともに、様々な作業を指示する人の両面に気づかせたい。



発問（三）なぜ、こんなに大きな古墳をつくったのでしょうか。

・古墳の規模や古墳づくりに関わった人の多さなどから、社会の仕組みについて考えさせる。

・豪族や王の集まりがやがてくにの統一へとつながっていくことを意識できるようにする。

本時のねらいは、こうなっています。

「大仙（仁徳陵）古墳の様子、出土品や古墳のつくり方などから強い力をもった王や豪族が現れた古墳時代の様子を考えることができる。」

この指導書の流れで授業をして、子どもは子どもの意欲を引き出すことができる。

しょうか。そうだな、一定の知識は身につきますが、おもしろくないなと私は感じます。でも取り入れたらいい部分もあります。これまでの素材研究をベースにどう組み立てていったのか、紹介します。

教科書P64の「大仙(仁徳陵)古墳」、想像図と「古墳にほうむられた人」を見て気づいたことを話し合いました。後を後に回します。

予習として、P65の「古墳づくりのようす」から気がついたこと、疑問に思うことをノートに書いてこさせます。授業の最初に発表させます。意見を板書していきます。そこでは話し合いをさせません。次に、「古墳」とは何かについて、捉えさせます。P64のキーワードの部分に「古墳は、その地域を支配していた王や豪族のお墓で・・・」とあります。この文をかみ砕いて説明しないと、低位の子には、何の勉強をするのか、分かりません。

発表の後にこう問いかけました。  
教師：「みんなはお墓まいりってしたことある？ある人 手をあげて。全員ですな。」今、みんなが発表してくれた想像図

はお墓なんです。子どもたちも経験している「お葬式」や「法事」について話をします。最近の子はその経験もない場合もありますので、説明には配慮がいらします。

教師：みなさんは、前の時間に卑弥呼勉強したね。卑弥呼もなくなる時がきました。死んでしまったんです。前時の教科書P63に書いてあることは、中国の書物に書かれていたことをわかりやすく書いているんだね。

前時の復習をした上で、前時と本時をつなげます。

教師：いろいろな説があるんだけど、卑弥呼がほうむられたのではないかと言われているのが、箸墓古墳、古墳はお墓のことです。

前方後円墳の始まりは箸墓古墳と言われていることにつながります。学者によっては違う説も言われています。

ここで古墳時代約300年の年表(細長い紙)をはります。3世紀中ごろから7世紀最初ぐらいと言われています。

と説明して、古墳時代全体を可視化しました。古墳と言っても最初と後では形も大き

さも変わってきます。教科書P67の高松塚古墳は後期に入ります。今年度の新しい教科書には、最初に2ページのところに掲載されて、渡来人との関連を最初から教えるようになっていきます。

教師：ここでクイズです。

日本には古墳はいくつありますか？

- 1, 約2万
- 2, 約8万
- 3, 約10万
- 4, 約16万

正解は、4番です。全国のコンビニの数は2019年3月で5万8340店。コンビニの約3倍あるのです。

約16万ある古墳の中で一番大きいのが、教科書のP64の写真の大仙(仁徳陵)古墳です。とここで、P64の資料を使いました。

この後に、学校の校舎や校庭の大きさと比較し、古墳の大きさを具体的にとらえさせるようにする。という指導書の内容と同じものを入れました。この学習は昔から取られていた方法です。何年か前から指導書にも載るようになりました。様々な実践のいいところが取り入れられています。





①大和 (仁徳朝) 古墳 (仁徳朝) 今、この古墳跡のよう  
に人の力だけでつくると、ゆべや680万7000人の人手と15年  
か月の工事期間、約794億円のコストがかかります。

なぜ、こんなに  
大きな古墳を  
つくったのだろう。



古墳にほうむられた人 (想像図)



くが統一される  
大阪府堺市にある天仙 (仁徳朝)  
古墳は、5世紀の中ごろにつくられた、日本で最も大  
きな前方後円墳です。ゆいさんたちは、このころにつ  
くられた古墳や出土品について調べました。

### 古墳時代

3世紀中ごろから7世紀初めころ  
までの時代。古墳は、その地域をま  
わっていた王や豪族の墓で、3世紀  
後半には、近畿地方から畿内各地  
の地域でつくられるようになりました。



古墳にほうむられた人は、とてもきらびやかなかざりをつ  
けているね。



とても大きい古墳だね。どうして長い年月や多くの費用を  
かけてこんな女に大きな古墳をつくらったのだろう。

このころつくられた古墳からは、銅鏡や鉄の刀のほか、鉄製の  
刀をはめたくわなどの農具が出土しています。

古墳にほうむられた人たちは、こうした農具を人々に分けあた  
え、さしずをしながら水田を広げていった方のある人だったと考  
えられています。

3世紀後半から4世紀には、前方後円墳と呼ばれる大型の古墳  
が、大和 (奈良県) や河内 (大阪府) を中心とする地域につくられ  
ました。このことから、この地域に強大な権力をもった人物がい  
たと考えられています。古墳が盛んにつくられたこの時代を古  
墳時代といっています。



②古墳づくりのようす (想像図) 古墳づくりからは、当時のすぐれた土木技術がわかります。

### 古墳時代

ゆいさんは、古墳についてさらに調べ、カードにま  
とめてみました。

●調べてわかったこと  
古墳にはさまざまな形があり、まわり  
には、たくさんのはにわが並べられて  
いた。



●わたしの考え  
はにわは、当時の人や建物のようすを  
知る手がかりになると思う。



③土器(土)と土人(土)のはにわ

# 「先生のための学校」 教師教育の復権

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋 2024 5

## 教育における疎外

### 競争と自己責任論からの脱却

教育における疎外を考える時、教育の主人公はだれだという問題に行き当たる。それは紛れもなく「教師と生徒」である。あとの全てのもの、校長も教育委員会も、文科省も保護者も教育学者さえ主人公になりえないという厳然たる真実からスタートすべきだと思う。

教育における疎外というなら、この主人公の二人が疎外感を感じ、生き生きとできないことが中心の課題であるべきだし、それをもたらししているすべてを改めるべきである。しかし、事は反対に動いている。校長も教育委員会も文科省も「教師と生徒」を何とかしようと膨大なエネルギー

ギーと税金と悪だくみを使って改革・教育改革と叫んでいる。本当に教育を改革したければ、主人公の教師と生徒に改革してほしいことを聞けばそれが最も効率のいい改革なのだ。

教育における疎外は主人公の外的要因だけでおこっている訳ではない。教師と生徒の間の二人の主人公の関係からも起こりえる。それが私たちの直接的なテーマだ。

この疎外からの脱出には競争と自己責任論をその教育システムから排除しなければならぬ。それは教師自身の課題だ。

### 主体者教育と授業自治、学級自治

主体者教育は学校教育のすべての

分野で行わなければならないが、ここでは授業自治と学級自治にわけて考えていきたい。授業自治は次のようなステップで始まり行われる。

これはすでにいくつかの著書で久保実践として提案したものである。

これを前期の授業自治の指標ステップとして行い次のステップを創造していつてくたさい。

### ステップ1 確立された授業システム

が提起され、そのシステムに習熟することが子どもたちのやりがいになっているか

4月から5月にかけて、教科学習、授業において、確立された授業システムが教師から子どもたちに提起され、子どもたちがそのシステムに則って授業に参加し、そのシステムに習熟することをやりがいと感じているか。

### ステップ2

競争と自己責任論が教室から駆逐され、さかのぼり

### 指導で学力格差の修復の 取り組みが行われているか

5月一か月間を通して、「読み書き計算」など学力の基礎を鍛える取り組みが学級上げて取り組まれ、計算については既習課題の習熟、漢字では唱えて覚える漢字など当該学年の漢字の習熟方法がしっかりと確立し成果を上げている。

ある。

### ステップ4 予習展開による授業づくり

を通して、休み時間や授業前のひと時に教室が次の授業の話題で花が咲くような状態が自然と起るようになっていくか

6月以降予習展開の授業づくりの取り組みが教師から提案され、子どもたちは次の時間の授業につきての話題を自由に語り合い、交流しあうようになっていくか。予習が出されていない教科でも学習の話題が休み時間にも行われることが多くなっている状態が起りつつある。

### づくりについて自治的な意識が芽ばえてくる

授業を進めるなかで、授業の進め方や深めたい場所や内容について、子どもたちが自由に意見を言うようになり、その単元の目標達成だけでなく、発展的な課題に向かってみんなで授業をつくり、深めようとする意見が出てそれが実現していく。

### ステップ3 社会科や理科の満点大作戦で「頼りになるのはお隣さん」の取り組みを行い模倣と共同の取り組みで成績が上がる実感を共有するようにしているか

5月以降共同で成績を上げる取り組みがテストの寸前まで行れ、共同することで成績が上がるのと、学力で分断されるのではなく共同で学力をつけるところが学校であるという自覚をすべての子どもが持つようになりつつ

### ステップ5 授業の進め方について子どもたちから意見がでて手直しが行われたり、最後の授業でこの部分を深めたいなどという意見がでて、授業

授業自治と主体者教育がどのように花開くかはきっとその教師の思想に大きくかわり問題です。僕たちがその実践を互いに検証しあい、どうすれば「主体者教育」が大きく前進し、授業自治が花開くのか教師自身の思想性が大きく問われる問題であるとともに、大きな未開の大地がそこには広がっているように思えるのです。きっとコツをつかめば想像を絶する大きな成果が現れる取り組みだと信じています。

の子どもが持つようになりつつ

もたちから意見がでて手直しが行われたり、最後の授業でこの部分を深めたいなどという意見がでて、授業

## 新学期スタート講座

「一年間を見通した授業づくり・学力づくり・学級づくり」に参加して

十川 瑠都

### 【第一講座】「学力づくりで学級づくり」

岸本ひとみ「始業式から始める学級づくり」

簡単なことを日々コツコツと楽しく、それを提案していくのが学力研だという言葉から始まった講座でした。話し合いのできる集団に育てていきたいが、語彙が必要なこと。相手の様子を見て対応するのは高度であるということから、基礎的な学力を育てることが大切という話が印象的でした。

また、どの子も伸ばすために必要なことが、実態調査を行うことであり、どの学年のどの計算で躓いているのかを把握することができます。個別に躓きに気が付くと、方針を立てることができないので、やみくもな手立てではなく、科学的にどの子も伸ばすことにつながります。

### 【第二講座】

荒井賢一「考える土台を築くための

日々の授業の組み立て方」

「考える」ことができるようになるには、

教えてくれました。まな板を使うためには、それを切る包丁や材料が必要になると同じように、思考するためには、長期記憶の知識が必要だということです。

模擬授業では、「禾」のつく漢字集めました。ただ集めるだけではなく、そこから、「禾のぎへん」のつく漢字の共通点や、稲妻には、なぜ稲という漢字が使われているのか等知識以上のことも考える授業で、考える土台ができるということを実感することができました。

### 【第三講座】

岡本美穂「学級づくりで大切にしたい

三つのこと」

学級づくりの考え方の軸となるお話を聞くことができました。

○学級は共有財産

学年目標（ゴール像）をただの飾りにしてしまいうのではなく、「共同」の話題としていくことができるということや、同調圧力ではなく、振り

返りの視点として使うことを学びました。

○学級でオキシトシン

幸せホルモンの一つであるオキシトシンは、親切にしたりされたりすることで分泌されるそうです。「共感↓思いやり↓親切」というループを大切に教師が「ありがとう」を伝えていくことを大切にしていきたいと考えました。

○学級で信頼を作る

学級通信で子や保護者と喜びを共有し、信頼を得ることができません。また、ノート指導を丁寧に行うことで、勉強を熱心に見てくれていると学習の様子を伝えることにもなります。

〈感想〉

始業式直前で、不安な時期でしたが、参加者も多く対面での講座に安心し、新学期に向けて心の準備をすることができました。

# 局長だより 5月

## ◇学力研最新情報 岸本ひとみ

### ●義務教育って何？

GWに、小学校卒業30年目の同窓会がありました。当時の担任として、招かれた私に、40代になった教え子が次々に、学校の様子が様変わりしたことを告げます。

「先生、うちの子の学校は、宿題がないんですよ。『自分の課題は自分で見つけてやりなさいって。』それがわかるのって、先生やからやろ。」

「うちは、宿題はあるけど、親が丸つけして提出するんですよ。」  
「タブレットドリルだけしかしなくっていいって言われて、毎日持って帰ってくるけど、重たくてかなわんわ。」

最後は、

「先生、義務教育って何なん。俺らは子どもに教育を受けさせる義務があるから、学校に行けって言うけど、そこからは学校の責任ちゃうん……。」

の大合唱になってしまいました。

### ●業務改善ってそれじゃない!!!

私と、教員になっていく教え子とは、自分の学校や、自分の方針との違いに、目がテン。その様子を見た教え子たちは、

「やっぱり、まともな学校や先生もあるんやな。『ブラックやから業務改善』って言われて、あきらめてたんやけど、もう一回学校に言うてみるわ。」

というPTA役員を先頭に、それぞれの地域に帰っていきました。これが本当の実態なら、義務教育に携わる者として、責任放棄ではないかと、事態の深刻さに驚いてしまいました。

宿題は、学校で習ったことを再学習して、定着させることを目的に出すものですから、定着不十分と判断したら、再度指導することになります。また、現行の指導要領で、家庭学習なしに内容が定着することも、あり得ないでしょう。

自己責任論を学校ぐるみで展開したような様子に、背筋が寒くなってしまう1日でした。

## ◇事務局だより 岡本 美穂

### ●春の先生のための学校

前回のご感想です。

・質問に答えてくださってありがとうございました。すごろくゲームなどの学習ゲームを一つの方法として取り組んでみたいと思いました。ありがとうございました。

・新年度に向けて、とても参考になりました。ありがとうございました。

・大変ありがとうございました。春夏秋冬のゲームや漢字ゲームを早速やってみたいと思います。なかなか覚えられなくて苦戦している漢字をこんなに楽しく学べて、そして、語彙も増えていく漢字指導や算数の一時目など、分かりやすく教えていただきありがとうございます。

・とても勉強になりました。また参加させていただきます。無意識にやっていたことを意図をもってやっていけるように思います。ありがとうございました。とても魅力的な実践の内容で面白かったです。自治的なクラスを目指すために取り組んでみま

す。ありがとうございました。

・今までやって来たことを再確認して新しいクラスでも応用して行けそうな気がしています。いろいろなアイディアや実践事例を聞けて大変参考になりました。有り難うございました。

・講師の先生方、ありがとうございました。いよいよ始まりますね。今年度の学級のもっていきかたを子どもの様子に合わせて柔軟に進めていきたいと思えます。みなさん一緒にがんばりましょう。

### ▼第3回

5月18日(土) 13:00~16:00

30名限定講座

「子どもも教師も安心して過せる学級づくりと授業」について、宮川先生、久保先生にご指導いただきながら皆さんで1年間の見通しを持ちませんか!? 初めての方も大歓迎ですお待ちしております!!!

■会場：たかつガーデン カトレア

https://www.kokuchipro.com/even  
t/7c28f96e55a7d5d1e5ab0773710  
474c/



# 学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2024年 5月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

## 5/

- 1 2 (日) 奈川学力研 10時～12時 県民サポートセンター704号室 (横浜駅西口) 湯浅 090-1104-4667  
1 8 (土) みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp  
2 4 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697  
2 4 (金) いろえんぴつ (加印) 18時半～ 天満南小学校 学習室 岸本 090-9117-6330  
2 5 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等はこちらへご連絡下さい。

- 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはこちらへご連絡を 前田 090-9715-3830

## 《全国キャラバン等 今後の予定》

### ○ 春の先生のための学校【全3回】

3月 24日(日) 13時10分～15時【済】 3月31日(日) 13時10分～15時【済】  
5月18日(土) 13時10分～16時 対面講座

○1年生講座 第4回 5月25日(土) 午後1時半～2時半 オンライン

○ 学力研 全国フォーラム 8/4(土)【予定】 分科会・講演 ドーンセンター

近日申し込み開始

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

※今回の特集、いかがでしたのでしょうか。最近、国語の授業であっても、「タブレットを使いなさい」と指定されることが多いそうです。しかし、ほんとに大切なのは、そのことで子どもたちの学力がつき、成長の礎となるかどうかです。子どものためになるならば、タブレットでもノートでも、どちらを使ってもいいのではないのでしょうか。(荒井)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一

E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛

E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也

E-mail katsuya4k1h9@gmail.com